

## 原子力艦船の横須賀港1000回入港に対する抗議文

11月2日の原子力空母ロナルド・レーガンが横須賀港に入港した。この原子力空母R・Rの横須賀入港は、1966年5月30日の原潜スヌークの横須賀入港以来1000回目の原子力艦船の入港となる。53年余に及ぶ原子力艦船の横須賀入港に強く抗議する。原子力空母R・Rは、直ちに横須賀から出て行くこと。今後、一切横須賀に原子力艦船は入港しないことを強く要求する。

米海軍第7艦隊司令官                      ウィリアム・マーズ中将 殿  
在日米海軍司令官                      ブライアン・フォート少将 殿  
米海軍横須賀基地司令官      マイケル・リッチ・ジャレット大佐 殿

神奈川県労働組合総連合  
新日本婦人の会神奈川県本部  
神奈川県商工団体連合会  
安保廃棄神奈川県統一促進会議  
原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会  
原水爆禁止神奈川県協議会

11月2日12時30分、原子力空母ロナルド・レーガンが横須賀港に入港した。これで、今年の原子力艦船の入港は20回目で、通算1000回となった。

原子力艦船の横須賀入港は、1966年5月30日の原子力潜水艦スヌークの入港から始まった。この日、神奈川県民は、原子力潜水艦の横須賀入港に対して、原子力による事故の危険性の増大と横須賀がアメリカの世界戦争の出撃拠点となることに反対して、2万人が参加し終日、抗議行動を行った。以来、53年5ヶ月、神奈川県民は、原子力艦船(原子力潜水艦及び原子力空母)が入港するたびに米海軍横須賀基地と日本政府に対し強く抗議し、県民と首都圏住民のいのちと安全・くらしを守ることを強く要求してきた。しかし、米軍は、この要求に対して一顧だにせず入港を続けてきた。

この1000回にわたる原子力艦船の横須賀入港は、どのような事態を引き起こしたか。米軍や日本政府は、「日本国民を守るために原子力艦船が横須賀を母港にしたり、寄港したりする」と説明してきた。しかし、53年間を振り返ってみるならば、「日本国民のいのちと安全を守る」という「説明」がまったくウソであったことは明らかである。繰り返される米軍による事故と事件、横須賀を出撃拠点にして行った数々のアメリカの世界戦争の事実がそのことを証明している。

事故や事件を振り返ってみれば、核トマホーク搭載原子力潜水艦の入港、米空母搭載の核兵器持ち込み、横須賀港の核持ち込み疑惑、原子力潜水艦の放射能監視の「日本分析化学研究所」での大量データ捏造事件、原子力艦船の放射能漏れなどによる横須賀港の放射能汚染、原子力潜水艦及び原子力空母の乗組員による繰り返される殺人を含む犯罪の数々、空母艦載機の爆音被害など、国民のいのちと安全、くらしを脅かす事件・事故は枚挙にいとまがない。さらに、横須賀は、アメリカのベトナム、湾岸、アフガン、イラクなどの侵略戦争の出撃拠点として、多くの無辜の市民の命を奪う戦争に関わっていた。

これまで米軍は、53年余にわたる神奈川県民の「戦争加担に反対」「核兵器の持ち込み反対」「県民のいのちと安全・暮らしを守れ」の声を無視し続け、原子力潜水艦の入出港、原子力空母の母港化など、年々、米軍の世界戦争のための横須賀基地の機能強化、核基地化を進めてきた。今回の原子力艦船の1000回入港にあたって、私たちは、改めて原子力艦船の入出港・母港化は「国民のいのちと安全を守る」という主張はウソであり詭弁であったことに強く抗議する。

このような横須賀港への原子力艦船の入出港が今後も続けることは、横須賀港の安全、原子力艦船の原子炉事故の危険性除去、横須賀基地の返還、横須賀港の平和港への道を遠ざけるものであり断じて許されない。

現在、朝鮮半島をめぐる情勢は、南北首脳会談や米朝首脳会談の開催などによって朝鮮半島の非核化、平和体制の確立に向けた前進が模索されている。この流れは北東アジアの平和と非核化にとって大変重要である。われわれは、この流れがさらに前進することを期待する。その立場からも、原子力艦船の横須賀入港、母港化は百害あって一利なしである。

米政府の2018年の「核態勢の見直し(NPR)」は、核兵器を「安全保障に必要」と正当化し、潜水艦発射ミサイル、陸上配備型大陸弾道ミサイル、戦略爆撃機の近代化、小型核弾頭や核巡航ミサイルなどの開発を進めている。さらに、トランプ政権は、中距離核戦力(INF)全廃条約の破棄を通告し、未臨界核実験を実施、ロシアも新たな戦略核兵器の開発など、米ロの核軍拡競争が強まっている。これまでの横須賀港の米艦船の入港によって、核兵器が持ち込まれていたことは様々な歴史資料で明らかとなっている。

今後、日米核密約によって米原子力潜水艦に核兵器を搭載して横須賀基地に入港することが懸念される。日米間の核密約を直ちに破棄し、非核三原則を国是とする日本の港、横須賀港に核兵器搭載艦入港は行わないことを強く要求する。

首都圏は巨大地震発生の可能性が日々強まっている。地震や津波による原子力艦船の原子炉事故も懸念される。原子力艦船の原子炉事故による神奈川県民や首都圏住民が放射線被害に遭うことは断じて許されない。米軍は地震や津波による原子力艦船の事故対策を明らかにしていない。

以上の点から今後、原子力艦船の横須賀港入港はやめることを強く要求する。

横須賀港は米原子力潜水艦の母港ではない。横須賀基地を戦争の出撃拠点にし、県民を放射線被害の危険にさらす原子力艦船の母港化、入港は一切やめること。

原子力空母ロナルド・レーガンは、横須賀港からただちに出て行くことを強く要求する。

以 上